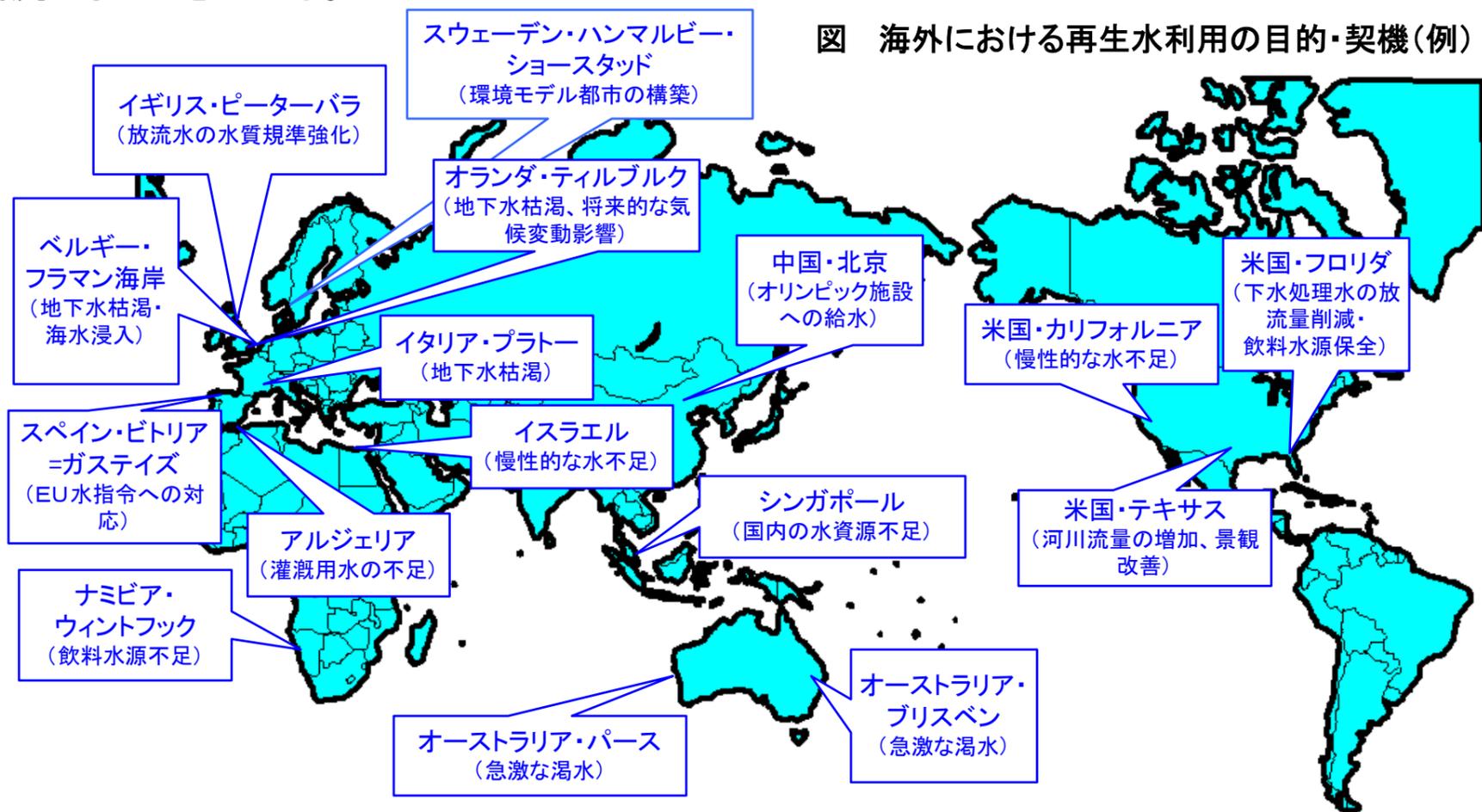


# 【下水処理水の再利用のあり方を考える懇談会 報告書】

## 「新たな社会的意義を踏まえた再生水利用の促進に向けて」の概要

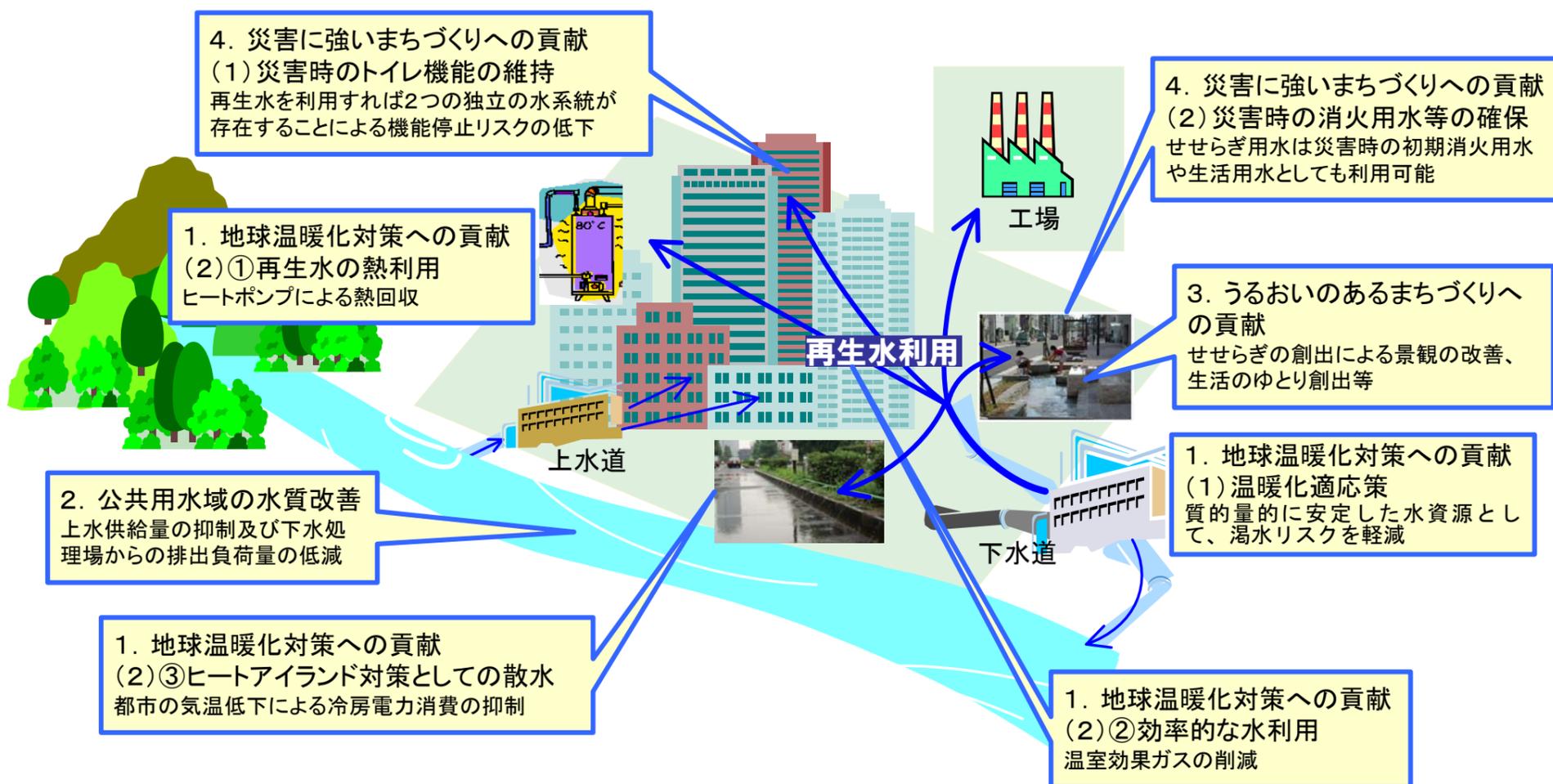
地球温暖化による利用可能な水の不足や、新たな水資源開発による生態系への影響等が懸念される中で、多くの地域社会では利用可能な水の供給は限界に近づきつつある。再生水は、持続可能な代替水源としての利用可能性が高く、また、取水量や排出負荷の減少による生態系への影響緩和、排水規制への対応としても活用できる。これらのことから、健全な水・物質循環系を構築していくために、総合的な水資源管理として再生水の利用を促進していくことは世界的な潮流となってきた。



### 【再生水利用の社会的意義・効果】

下水処理水を再生水として利用することにより、より高品質の水資源の保護、河川流量の確保、生態系の保全につなげるとともに、より身近な地域規模で水・物質循環系を構築することで、「地域社会のすぐそばにある価値ある資源」として利用することが可能となる。併せて、水処理技術、特に膜処理を中心とした技術の開発と普及が進んでおり、都市内に豊富に存在する水資源、熱源として、下水、下水処理水の価値が高まりつつある。このような中、以下のような社会的意義・効果を踏まえて、適切かつ着実に再生水利用を促進していく必要がある。

図 再生水利用の社会的意義・効果



# 【再生水利用に関する施策の今後の方向性】

## ■施策の推進にあたって留意すべき視点

### 視点1 水・物質循環系の健全化やまちづくりにおける再生水利用の明確化

水・物質循環系の健全化やまちづくりにおける再生水利用の位置づけを明確にし、それらの取り組みと一体的に進めていく

### 視点2 再生水利用に関わる情報の共有化と積極的な情報発信

各分野とも連携して、再生水の利用に関して必要な情報の共有化と情報発信を進めていく

### 視点3 利用用途に応じた水質基準の整備と新技術に関わる評価手法の整備

再生水利用を推進するため、利用用途に応じた水質基準や新技術に関わる評価手法を整備していく

### 視点4 民間等との協働による再生水供給の推進

再生水供給事業に民間等が参入しやすい環境を整備するため、事業運営、経済性等に関わるリスクが軽減され、責任や役割の分担等が明確となる制度設計をしていく

### 視点5 エネルギーの媒体としての再生水の有効活用

再生水の水資源としての性質を活用するとともに、熱や位置エネルギーの媒体としての性質も最大限に活用し、社会全体の消費エネルギーや温室効果ガス排出量の低減を図って、低炭素型社会へ転換していく

## ■再生水利用のモデル的な取組への支援

水・物質循環系の健全化やまちづくりとの一体的な再生水利用を、着実に進めるためのモデル的な取組について積極的に支援していく。

### □サテライト処理システムによるモデル的な再生水供給への支援

下水道事業でもサテライト処理システムへの、し尿と雑排水を分離したシステムの適用を検討し、そのモデル的な整備を支援すべきである。

### □災害時の再生水の積極的活用への支援

再生水を含めた複数の水源を確保のため、民間等も含めた再生水供給施設の整備を支援すべきである。

### □再生水を活用した都市の水辺整備への支援

住民の再生水利用への理解を深めるため、再生水等を活用したせせらぎ等の水辺整備へ支援すべきである。

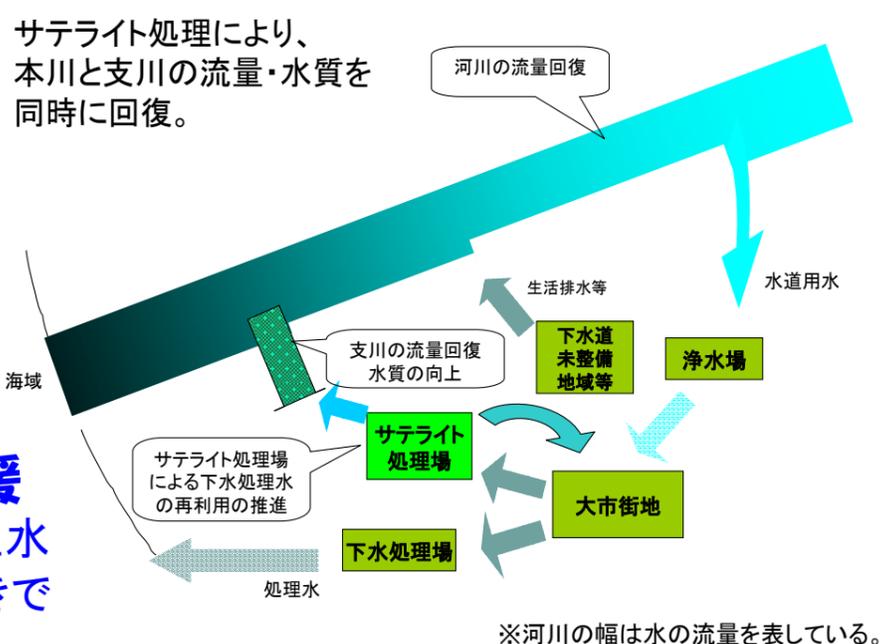


図 サテライト処理による効果イメージ

### □地下水等其他の水源と組み合わせた再生水の活用への支援

再生水と他の水源との組み合わせに係る技術的課題の解決を図るモデル的な取組を支援すべきである。